



「チェーンソーオイル 110 “J X 日鉱日石エネルギー”

チェーンソー専用高級オイルです。

1. 高度精製基油に張り付き性向上剤を配合。
2. オイルの飛散が少なく、耐水性に優れています。
3. 潤滑性に優れ、チェーンの寿命延長が可能です。
4. チェーンを錆や腐食から守ります。

容量:4L缶



「髻高物語」 21

高校生活もあつという間に二年が過ぎ、私たちは三年の春を迎えていた。校舎とグラウンドを隔てるようにある桜並木が、今年も満開の花びらで新入生を歓迎している。

放課後四人がグラウンドの前に集まった。サッチャンが、めずらしく口火を切った。

『この桜見られんのも今年が最後か、速いもんだなあ』

一瞬、咲き誇る桜色の花びらと同時に紺の制服姿の微笑が脳裏を掠めた。わたしは何のためらいもなく言った。

『髻女の桜、観に行かねえが』

『うん行ってみっぺ。俺も行ってえど思ってたんだ。いわきの高校で一番きれいだって言うしよ』

タカシヤンが、髻女の方角を眺めながら上ずった声で話した。

『怪しいなその声、タカシヤンまさか好きな人出来たんであんめ』と、サッチャンが問い返す。

『うん、そのまさかがまさかだ』

『高校3年生』

いつものタカシヤンらしく、さりげとした言葉で正直に話す。

『おいおい、それじゃサッチャンもじゃねえのか』

『うん』

『あんたも髻女か』

『うん、俺も右做えだよ』

『まあ、俺たちも三年だ。それも仕方がないだろう。おおいにやれよ。最後なんだから』

中学二年の時に転向してきたハッチャンが、少し大人びた標準語で話す。

『俺はみんなに付き合ってる暇がないから、図書館に行くよ』

彼は、学年でいつも十番前後の成績でいる秀才だった。翌年東大に九人合格しているのだから彼も十分狙える位置にいた。

あるとき彼はこんなことを相談してきた。

『俺は学資のかからない防衛大に行くべきか、それとも苦学してでも東北大に行くべきかな』

『そうだな、やっぱり東北大に行くべきだよ。勉強が恋人なんだから』後に、東北大の教授になる。

☆ あとがき ☆



車で10分程の所に、しだれ桜で有名な諏訪神社があるので観に行ったのだが見物客で駐車場も一杯、仕方なく母校の桜を見に行っただけ。

校風の「質実剛健」の如く大木の枝葉から咲き誇る満開の桜が、55年前のあの時と一つも変わらず凛としてわたしを迎えてくれた。傍らで練習していた応援団の諸君に声を掛け、一緒に記念の写真を撮りました。